

PRESS RELEASE

同時発表：国土交通記者会
国土交通省建設専門紙記者会
東京都庁記者クラブ

森トラストグループ秋季震災訓練

グループの危機管理対応の更なる強化策として 新たな災害時情報共有システムを構築

森トラスト株式会社（本社：東京都港区、社長：伊達 美和子）は、2018年度秋季震災訓練を以下の通り実施しましたのでお知らせいたします。

森トラストグループでは、創業以来、「持続可能で先進的な街づくり」を志し、日々進化するIT技術を防災インフラに取り入れることで、新たな防災体制の構築を行っているほか、オフィスワーカーを対象にした継続的な訓練の実施により、一人ひとりの防災への意識向上に向けた取り組みを行ってまいりました。

今回、秋季震災訓練を機に、森トラストグループは、災害時の初動対応に必要な情報を瞬時に収集し、的確な指示を現場の従業員に確実に伝達する体制の強化を目的に、新たな情報共有・コミュニケーションツールである災害時情報共有システムを構築しました。当システムはパソコンだけではなく、スマートフォンのアプリケーション上での操作が可能で、当社グループのビルや住宅、ホテルの被害状況の把握に加え、災害時の従業員同士のコミュニケーションをサポートする機能としての活用が見込まれています。

また、本日、森トラスト本社である虎ノ門二丁目タワーでは、個人の防災への意識喚起を強化する事を目的に、ビル入居者や、近隣の関係者に向けて、VRを使用した防災体験車によるリアリティのある体験訓練を実施しました。また、生活基盤を支える家庭防災の向上のため、当社社員向けに、東京消防庁による家庭防災セミナー等を実施し、就業時だけではなく、家庭での備えの重要性を学びました。

今後も森トラストグループでは、コーポレートスローガン「Create the Future」のもと、新たな情報技術を用いた訓練や、ビッグデータの蓄積による人工知能を活用した防災体制の構築を行っていくことで、持続可能な都市づくりを目指してまいります。



災害時情報共有システム イメージ



秋季震災訓練の様子

森トラストグループ秋季震災訓練 概要

場所：森トラスト株式会社本社（虎ノ門2丁目タワー）

日時：2018年8月30日（VR防災体験車・起震車の体験訓練、家庭防災啓発）

2018年9月5日（災害時情報共有システムを用いた初動対応・情報共有訓練）

1. 災害時情報共有システムを用いた初動対応・情報共有訓練

災害・事件・事故時の情報共有とコミュニケーション強化を目的に導入した災害時情報共有システムの習熟を目指し、基本的機能や操作性の確認を2018年9月5日に行う予定です。

2. VR防災体験車・起震車の体験訓練

震災に関する啓発・教育を目的に、東京消防庁で導入した最新VR防災体験車による体験訓練を実施しました。

・VR防災体験車

防災意識の向上を促進するための専用大型車両「VR防災体験車」を用いた体験訓練を、ビル入居者や近隣の関係者向けに実施。モーションシートによる各種演出およびヘッドマウントディスプレイのバーチャルリアリティ映像で、これまでにない臨場感あふれる災害の疑似体験が出来ます。

・起震車

3次元の振動と連動した映像・効果音により、熊本地震や東日本大震災など、過去に発生した様々な地震や、最大震度7までの連続地震が体験可能です。



VR防災体験車 訓練の様子



起震車 訓練の様子

3. 家庭防災啓発

森トラストグループ社員の家庭防災強化を目的に家庭防災に関するセミナーや、ミドリ安全株式会社による防災用品の展示および斡旋販売会を実施しました。



家庭防災セミナーの様子



ミドリ安全株式会社による防災用品の展示

【森トラストグループの災害に関する主な取り組み】

■2011年 東日本大震災における仙台トラストシティでの帰宅困難者受入対応

東日本大震災の際に、仙台トラストシティにおいては被災直後速やかに非常用発電機を発動し、電源供給を開始。照明の点灯や非常用エレベーターの運行、トイレも使用可能とするなど、基本的な建物機能を維持するとともに、携帯電話の充電スペースとして建物外構部分において電源の提供を行いました。また、広域連携をはかるべく「グリッド型BCP※」を活用したことで、被災地情報や被災者ニーズを共有し、グループ全体で延べ約11,000人の帰宅困難者・被災者を受け入れました。

※ グリッド型BCP：森トラストグループが保有する全国の施設について、各エリアの基幹施設を核としたグループに分けて群管理を行い、各グループをグリッド状にネットワーク化することで、情報の明確化・一元化を可能とすると同時に、有事の際の対応スピード向上や代替対応への柔軟性を確保する取り組みのこと。

■2018年3月実施春季震災訓練

・VRによる疑似火災避難訓練および体験型震動シミュレーターによる地震体験

地震発生後に火災が発生し、煙が立ち込める中、制限時間内に誘導灯を頼りに火災現場から脱出できるか、ヘッドマウントディスプレイによるVR空間で体験しました。また、開発中の体験型地震シミュレーター「地震ザブトン×VR」により阪神淡路大震災、東日本大震災、想定される東海地震など6種類の揺れを体験しました。



VR機器による火災時の疑似避難訓練の様子



「地震ザブトン×VR」体験の様子

・安否確認訓練

緊急時において、社員・家族の安否確認および情報伝達のツールとして導入している緊急連絡システムを活用し、森トラストおよび森トラスト・ビルマネジメント社員が訓練に参加。本部からの指示の周知および各社員が登録した安否情報を集計するとともに、活動の体制を迅速に構築するため、初動活動要員・復旧活動要員として活動可能な社員を把握する訓練を実施しました。

・初動確認訓練

災害発生時の迅速な行動開始を目的とし、各部署で初動対応業務や業務体制について全社員が確認を実施しました。

・家庭防災アンケート調査

家庭防災の支援を目的としたアンケートを実施。このアンケート結果を活用し、家庭防災の課題・障害を捉えることで、森トラストグループ社員の災害対応力の向上に加えて、ビル入居者へのサービス提供も視野に入れた家庭防災の充実に向けた支援を検討しています。